

第12回日本救急救命学会学術集会

The 12th Conference of Japanese Society for Emergency Life-Saving

プログラム・抄録集



現場の知を科学に
—救急救命士が創るエビデンス—

<https://12th-jsels.com/>

第12回日本救急救命学会学術集会 開催にあたって

第12回日本救急救命学会学術集会

大会長 北野 信之介

(東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座 助教)



謹啓

平素より日本救急救命学会の活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。この度、「第12回日本救急救命学会学術集会」を開催させていただき運びとなりました。開催にあたり、これまで本学会を支えてくださった多くの方々のご尽力とご協力に、深く感謝申し上げます。

近年、救急救命士を取り巻く環境は、救急救命士法改正による処置範囲の拡大、救急需要の増加、医療機関における多職種連携の深化、さらには働き方改革への対応など、かつてない速度で大きく変化しています。このような状況下において、救急救命士が国民の生命を守る最前線に立ち続けるためには、経験や技能のみならず、その専門性を客観的かつ科学的に裏付ける学術的基盤の構築が不可欠であると考えます。

本大会のテーマである「現場の知を科学に—救急救命士が創るエビデンス—」は、救急現場で日々培われてきた経験や知恵を、単なる事例の蓄積にとどめることなく、科学的手法によって検証し、再現性と普遍性を備えたエビデンスとして社会に還元していくことの重要性を示しています。

本学術集会は、東京慈恵会医科大学という大学病院・医学部を会場として開催することで、救急救命士のみならず、医師、看護師、その他メディカルスタッフにも広く門戸を開き、職種横断的な議論と学術交流を積極的に推進することを目指しております。救急救命士の学術的役割を社会に示す貴重な機会になると考えております。

また、現地開催を基本としつつ、現地参加が困難な方々にも広くご参加いただけるよう、一部プログラムについてはオンデマンド配信を併用するハイブリッド形式を採用しております。これにより、地域や所属を越えた知識共有と議論を促進し、全国規模での学術的ネットワーク形成を図りたいと考えております。

謹白

第 12 回日本救急救命学会学術集会 開催概要

日 時：2026 年 10 月 4 日（日） 8：30－18：00

場 所：東京慈恵会医科大学 医学部（東京都港区）

テ ー マ：現場の知を科学に ―救急救命士が創るエビデンス―

大 会 長：北野 信之介（東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座 助教）

開催方式：現地開催/一部オンデマンド配信

学術集会ホームページ：<https://12th-jsels.com/>

第12回日本救急救命学会学術集会 日程表

時間	第1会場 大学1号館講堂	第2会場 大学1号館5階講堂	第3会場 大学1号館6階講堂	第4会場 クリニカルセミナー ※事前登録制	ピロティ 1号館4階 学生ホール
8:30	8:30-8:55 開会式・会長講演 座長：北村 浩一／横田 裕行				
9:00	9:00-10:20 パネルディスカッション1 日本救急救命士会コロナ企画 患者搬送の課題解決に向けた 取り組み 座長：沼田 浩一／北村 浩一	9:00-10:00 一般演題1 救急救命の臨床（症例報告） 座長：藤本 賢司／染谷 泰子	9:00-9:40 一般演題4 救急救命の教育・研修① 座長：原田 諭／鳴海 圭佑	9:00-10:30 クリニカルセミナー① 『その瞳孔，“勘”で診ていませんか？』 定量的瞳孔評価入門 担当：渡邊 顕弘	
10:00		10:00-11:00 一般演題2 救急救命の研究 座長：一ノ瀬 佳彦／吉井 克昌	9:50-10:30 一般演題5 救急救命の教育・研修② 座長：小山内 健介／中川 貴仁		
11:00	10:30-11:00 ブランチセッション 新しいActive coolingの実践 共催：株式会社アドバンス		10:40-11:20 一般演題6 救急救命におけるAI・DXの活用 座長：齋藤 健吾／吉井 友和	10:40-12:10 クリニカルセミナー② やってみよう！ シミュレーション教育 担当：衛藤 由佳	
12:00	11:10-12:10 シンポジウム 現場の疑問を形にする： 臨床研究の第一歩 座長：高橋 治花／北野 信之介	11:10-12:10 一般演題3 救急救命のデータ解析 座長：齋藤 駿佑／中川 洸志	11:30-12:10 一般演題7 学生セッション① 座長：一柳 保／若松 淳		
13:00	12:20-13:10 ランチョンセミナー1 救急医療情報システムの未来像 ～XRを利用した救急現場～ 共催：TXP Medical 株式会社	12:20-13:10 ランチョンセミナー2 機械的胸骨圧迫装置「AutoPulse NXT」 の施設運用経験と活用事例 共催：旭化成ゾールメディカル株式会社			
14:00	13:20-14:20 特別企画 日本・タイ間における 救急救命学術連携の未来 座長：鈴木 健介／北野 信之介	特別企画は第1会場にて開催		13:20-14:20 クリニカルセミナー③ 重症外傷初療を支えるチームカ ーコミュニケーションと チームビルディング 担当：吉野 雄大	
15:00	14:30-15:20 デザートセッション 救急DXは、現場で使えてこそ 一救急医×救急救命士が語る。 プレホスピタルと病院をつなぐ実践 共催：パースビュー株式会社	14:30-15:00 教育セッション1 アクセシビリティとは？ 救急現場でのコミュニケーション 座長：脇田 佳典	14:30-15:10 一般演題8 学生セッション② 座長：竹田 豊／後藤 奏	14:30-15:30 クリニカルセミナー④ 実践！明日から使える 心電図モニター・12誘導心電図！ 担当：武田 聡	
16:00	15:30-16:30 パネルディスカッション2 病院救急救命士の専門性と エビデンス 座長：加藤 渚／北原 学	15:10-15:40 教育セッション2 これからの救急現場を支える コミュニティパラメディック 座長：喜賀斗 智也	15:20-16:00 一般演題9 その他 座長：津波 古憲／黒崎 久訓	15:40-16:40 クリニカルセミナー⑤ “換気できている”を見直す —基本だからこそ差がつく 補助換気の実践— 担当：河野 陽介	
17:00	16:40-17:30 基調講演 救急救命士が創る未来の 処置拡大ロードマップ 田邊 晴山 座長：鈴木 健介	基調講演は第1会場にて開催			
18:00	17:40-18:00 閉会式・表彰式	18:30-20:00 懇親会			

開会式・講演・式典
 パネル・シンポジウム・特別企画・教育
 一般演題
 共催セミナー
 クリニカルセミナー

※第4会場のクリニカルセミナーは事前登録制です。

第12回日本救急救命学会学術集会 プログラム

第1会場（大学1号館講堂）

会長講演（CL）

8:30~8:55

座長

国際 TBC 看護医療保育福祉専門学校 北村 浩一
日本体育大学 名誉教授/一般財団法人日本救急医療財団 理事長 横田 裕行

CL 現場の知を科学に一救急救命士が創るエビデンスー

第12回日本救急救命学会学術集会 大会長、東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座 助教 北野信之介

パネルディスカッション1（PD1）

9:00~10:20

患者搬送の課題解決に向けた取り組み

座長

日本医科大学多摩永山病院 救命救急科 沼田 浩人
国際 TBC 看護医療保育福祉専門学校 北村 浩一

PD1-1 当院における転院搬送の現状と今後の課題

埼玉医科大学国際医療センター 教育支援センター 岸田 全人

PD1-2 転院搬送の課題解決に向けた取り組み

日本医科大学付属病院 高度救命救急センター、日本体育大学大学院 保健医療学研究科救急災害医療学専攻 濱 京志朗

PD1-3 病院救急車を活用した転院搬送体制と消防救急車依頼削減

一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 菅野 弘明

PD1-4 地域を一つの医療機関として捉えた転院搬送体制の構築と運用

一院内救急救命士を活用した消防資源適正化への取り組みー

独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター 救急科 星野 唯

PD1-5 DX と民間救急救命士による持続可能な地域搬送体制の構築

フィルタス株式会社 営業企画本部 三輪 琴未

PD1-6 病院救急車の安全運行を目指して ～医療搬送安全対策 WG の取り組み～

一般社団法人日本救急救命士会 医療搬送安全対策講ワーキンググループ 組澤 光一

ブランチセッション (BS)

10:30~11:00

座長

国士舘大学大学院 救急システム研究科 木村 龍

BS 新しい Active cooling の実践

東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座危機管理・救命分野 田上 隆
共催：株式会社アドバンス

シンポジウム (SY)

11:10~12:10

現場の疑問を形にする：臨床研究の第一歩

座長

日本体育大学 日本学術振興会特別研究員 高橋 治花
東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座 助教 北野信之介

SY-1 日常の違和感を研究に変える—救急現場から生まれた臨床研究の実践—

日本医科大学付属病院 高度救命救急センター 古正 風沙

SY-2 現場の疑問を形にする—消防救急救命士が実践する臨床研究の第一歩—

富士五湖消防本部 萱沼 実

SY-3 「なぜ？」をエビデンスへ—疑問を形にする臨床研究の考え方—

国士舘大学大学院 救急システム研究科 木村 龍

SY-4 傷病者が教えてくれたクリニカルクエスチョン

日本体育大学 保健医療学部救急医療学科 藤本 賢司

ランチョンセミナー 1 (LS1)

12:20~13:10

座長

国士舘大学大学院 救急システム研究科 喜熨斗智也

LS1 救急医療情報システムの未来像 ～XR を利用した救急現場～

藤沢市消防局 鈴木 真也
藤沢市消防局 野林 宏輝
TXP Medical 菅 繕久
共催：TXP Medical 株式会社

特別企画 (SP) タイ救急救命士会コラボ企画

13:20~14:20

日本・タイ間における救急救命学術連携の未来 ～データベース研究と臨床研究を軸とした国際共同展開～

座長

日本体育大学 保健医療学部救急医療学科、日本体育大学大学院 保健医療学研究科 鈴木 健介
東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座 北野信之介

デザートセッション (DS)

14:30~15:20

座長

バーズ・ビュー株式会社 夏井 淳一

DS 救急DXは、現場で使えてこそ—救急医×救急救命士が語る、プレホスピタルと病院をつなぐ実践—

東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座危機管理・救命分野 田上 隆
日本体育大学 保健医療学部救急医療学科, 日本体育大学大学院 保健医療学研究科 鈴木 健介
共催: バーズビュー株式会社

パネルディスカッション 2 (PD2)

15:30~16:30

病院救急救命士の専門性とエビデンス

座長

東京科学大学病院 救命救急センター 加藤 渚
国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 救命救急センター 北原 学

PD2-1 院内救命士の現状と将来性

愛媛大学医学部附属病院 尾崎 郁哉

PD2-2 Cardiovascular Intensive Care Unit における病院救命士の新たな役割とその活動経験

日本医科大学付属病院 高度救命救急センター 高山 航

PD2-3 自己完結型救命救急センターにおける緊急初療室手術および血管内治療に参画する

病院救急救命士の役割と専門性

日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急科 萩原 鈴香

PD2-4 病院救急救命士が担う災害ロジスティクス—NHO における災害対応能力向上への実践—

独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター 救急科 星野 唯

基調講演 (KS)

16:40~17:30

救急救命士が創る未来の処置拡大ロードマップ

座長

日本体育大学 保健医療学部救急医療学科, 日本体育大学大学院 保健医療学研究科 鈴木 健介

KS 救急救命士の可能性を拓ける—処置拡大の現在地と展望—

一般社団法人救急振興財団 救急救命東京研修所 田邊 晴山

閉会式・表彰式

17:40~18:00

第2会場（大学1号館5階講堂）

一般演題1（O1）

9:00~10:00

救急救命の臨床（症例報告）

座長

日本体育大学 保健医療学部救急医療学科 藤本 賢司
帝京平成大学 健康メディカル学部医療科学科救急救命士コース 染谷 泰子

- O1-1 高エネルギー外傷 L & G 症例における病院手配遅延の要因分析
—認知バイアスが現場滞在時間に与えた影響—

双葉地方広域市町村圏組合消防本部 篠田 聖基

- O1-2 病院救命士は多数傷病者事案でどう動くか ～現場マネジメントから高度医療介入まで～

津山中央病院 宮本 瑞綺

- O1-3 気管挿管実施後に自発呼吸が再開した症例

入間東部地区事務組合消防本部 坂田 章法

- O1-4 除細動パッド装着位置を工夫した症例

埼玉県南西部消防局 樺沢 亮

- O1-5 病院救急車による転院搬送患者の NEWS スコアリング ～中間報告～

京都橘大学 健康科学部救急救命学科 齋藤 汐海

- O1-6 ラピッド・ドクターカー（RDC）が救急隊に与える効果について

富士市立中央病院 病院総務課 星 雄樹

一般演題2（O2）

10:00~11:00

救急救命の研究

座長

岸和田市消防本部 一ノ瀬佳彦
奈良県立医科大学 高度救命救急センター 吉井 克昌

- O2-1 ハイパフォーマンス CPR の実装に向けた所属内での取り組みとその効果

弘前地区消防事務組合 今泉 愛果

- O2-2 初療室における救急救命士による気管挿管の実態

日本医科大学付属病院 高度救命救急センター 増田 尋斗

- O2-3 救急車緊急走行中の有害事象と走行環境の関連

日本医科大学付属病院 救命救急科 高橋 健

- O2-4 病院前救護活動におけるインシデント発生要因の月別特徴の検討
—奈良県広域消防組合における記述研究—

国士舘大学大学院 救急システム研究科 井上 務

○2-5 種子島の急性期病院における島外搬送患者の特徴と転帰に関する検討
—4 年間 191 例の後方視的検討—

社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター看護部 竹之内 卓

○2-6 在宅終末期がん傷病者の心肺停止時における DNAR 意思表示方法が救急対応に及ぼす影響

日本体育大学大学院 保健医療学研究科救急災害医療学専攻、東温市消防本部 二神 平

一般演題 3 (O3)

11:10~12:10

救急救命のデータ解析

座長

弘前医療福祉大学短期大学部 救急救命学科 齋藤 駿佑
国士舘大学 体育学部スポーツ医科学科 中川 洸志

○3-1 機械的 CPR 導入が院外心停止患者の転帰に与える影響：
Interrupted time series 解析および症例レベル解析

知多中部広域事務組合消防本部 宮崎 寛典

○3-2 全国救急隊員シンポジウムの開催と院外心停止傷病者の転帰との関連：
ウツタインデータを用いた観察研究

京都橘大学 健康科学部 黒崎 久訓

○3-3 日本の海で発生した心停止における自動体外式除細動器装着状況の実態

国士舘大学大学院 救急システム研究科 阿部 和

○3-4 住宅で発生した院外心停止における居住階層と AED 到達の関連

国士舘大学大学院 救急システム研究科 板垣 和真

○3-5 住宅発生院外心停止における自動体外式除細動器装着と 1 か月生存の関連の検討：コホート研究

国士舘大学大学院 救急システム研究科 松本 剛

○3-6 院外心停止における消防隊と救急隊の連携活動と予後の関連

国士舘大学大学院 救急システム研究科 松尾 祥汰

ランチョンセミナー 2 (LS2)

12:20~13:10

座長

東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座危機管理・救命分野 田上 隆

LS2 機械的胸骨圧迫装置「AutoPulse NXT」の施設運用経験と活用事例

公立豊岡病院 但馬救命救急センター 永嶋 太
共催：旭化成ゾールメディカル株式会社

教育セッション 1 (ES1)

14 : 30~15 : 00

アクセシビリティとは？ 救急現場でのコミュニケーション

座長

東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部/東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座 脇田 佳典

ES1-1 アクセシビリティとコミュニケーション—人材育成—

東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部/東京慈恵会医科大学 救急災害医学講座 脇田 佳典

ES1-2 アクセシビリティを知ると、救助・救命の現場に道が開ける

東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部 高橋 宜盟

教育セッション 2 (ES2)

15 : 10~15 : 40

これからの救急現場を支えるコミュニティパラメディック

座長

国土舘大学大学院 救急システム研究科 喜熨斗智也

ES2 Community Paramedicine から考える日本の救急救命士の可能性

—その地域の“緊急”を救うということ—

医療法人社団青燈会 小豆畑病院 郡 愛

第3会場（大学1号館6階講堂）

一般演題4（O4）

9:00~9:40

救急救命の教育・研修①

座長

日本体育大学 保健医療学部救急医療学科、日本体育大学大学院 保健医療学研究科 原田 論
弘前医療福祉大学短期大学部 救急救命学科 鳴海 圭佑

- O4-1 四年制大学救急救命学科に所属する学生のキャリアに関する縦断的調査；
第三学年後期から卒業前にかけての検討

川崎市消防局 三芳 智伸

- O4-2 救急救命士養成校に求められる医療機関勤務を目指す学生に対する教育内容

国際医療看護福祉大学校 救急救命士科 稲川 暁大

- O4-3 狭隘環境が心肺停止活動時の救急救命処置に与える影響
—救急救命士養成教育を対象とした多施設研究—

帝京大学 福岡医療技術学部 吉村 優希

- O4-4 病院前12誘導心電図伝送の位置づけと消防組織内認知の乖離要因PACCコース・ランチョンセミナー実践からの検討

日本救急システム株式会社 大谷 浩史

- O4-5 シミュレーション下における気道異物除去：声門視認性向上は処置時間短縮に直結しないのか

日本医科大学付属病院 高度救命救急センター 相坂 颯汰

一般演題5（O5）

9:50~10:30

救急救命の教育・研修②

座長

一般社団法人救急振興財団 救急救命東京研修所 小山内健介
弘前医療福祉大学短期大学部 救急救命学科 中川 貴仁

- O5-1 CALSに基づく院内シミュレーション訓練における課題の検討

埼玉医科大学国際医療センター 片山 久瑠

- O5-2 救急救命士学生における学習動機づけ類型と模擬試験得点推移の関連：
線形混合効果モデルによる検討

明治国際医療大学 保健医療学部救急救命学科 守岡 大吾

- O5-3 救急救命士養成課程学生における救護者保護制度に関する意識調査

日本医科大学付属病院 高度救命救急センター 小松みのり

- O5-4 AIを活用した想起学習が救急救命士養成課程学生の学習成果およびAI活用学習の受容度に与える影響—アンケートデータを用いた前後比較研究—

日本体育大学 保健医療学部救急医療学科 三橋 正典

- O5-5 Stop the Bleed 教育の有無による出血量の認知と自信の変化

日本体育大学大学院 保健医療学研究科 河本 颯太

一般演題 6 (O6)

10:40~11:20

救急救命におけるAI・DXの活用

座長

一般社団法人新井クリニック 齋藤 健吾
出雲市消防本部 吉井 友和

- O6-1 実践的な心肺蘇生教育を行うためのAR教材作成とその教育効果の検証

京都橘大学 健康科学部救急救命学科 西 大樹

- O6-2 患者搬送業務の可視化がもたらした効果と課題

社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 救急救命課 丸山 大貴

- O6-3 救急救命士の生涯学習能力を育成する支援型「コーチングAI」の開発と自己調整学習

日本体育大学 保健医療学部 須賀涼太郎

- O6-4 ER救急救命士の初期評価における生成AI活用によるアセスメント支援の試み

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 山本 友祐

一般演題 7 (O7)

11:30~12:10

学生セッション①

座長

高野町防災課 一柳 保
弘前医療福祉大学短期大学部 救急救命学科 若松 淳

- O7-1 市民に対するエピペン教育プログラムの有効性についての検討

京都橘大学 健康科学部救急救命学科 眞嶋 健登

- O7-2 救急救命学科学生の心電図判読能力の現状と教育的課題

京都橘大学 健康科学部救急救命学科 榎本 雄志

- O7-3 水難救助実習による救急救命士養成課程学生のチームワーク能力向上に関連するベースライン特性

国士舘大学 体育学部スポーツ医科学科 長友 羽美

- O7-4 医療系学生における他医療職種の職務内容に対する理解度の検討

京都橘大学 健康科学部救急救命学科 長谷川果凜

- O7-5 救急隊員の身体的・精神的ストレスに関連する因子の検討

京都橘大学 健康科学部救急救命学科 安田 青空

一般演題 8 (O8)

14 : 30~15 : 10

学生セッション②

座長

島根県立中央病院 救命救急診療部 竹田 豊
日本救急システム株式会社 後藤 奏

O8-1 救急隊の不搬送判断と法的責任—急変事例を踏まえたチェックリストの提案—

京都橋大学 健康科学部救急救命学科 柴田 玲奈

O8-2 救急現場における DNAR プロトコルの現状と課題

京都橋大学 健康科学部救急救命学科 大城 愛純

O8-3 救急救命士養成課程の学生が捉える専門性認識の構造とキャリア形成への不安

京都橋大学 健康科学部救急救命学科 中島 詩歩

O8-4 水難救助実習による救急救命士養成課程学生のチームワーク能力の変化

国土館大学体育学部スポーツ医科学科 佐藤あいり

一般演題 9 (O9)

15 : 20~16 : 00

その他

座長

国土館大学 体育学部スポーツ医科学科 津波古 憲
京都橋大学 健康科学部 黒崎 久訓

O9-1 院内救命士導入後の看護師の認識と役割期待

社会医療法人財団池友会 新行橋病院 瀬名波昇龍

O9-2 病院救急救命士の人材定着と役割認識に関する検討—新規卒者と経験者の意識差に着目して—

宮崎市郡医師会病院 救急科 川口 惇

O9-3 病院で働く女性救急救命士と今後の展望

社会医療法人若竹会 つくばセントラル病院 齋藤 瑠夏

O9-4 自己完結型救命救急センターで勤務する救急救命士による転院搬送業務と収益増加への取り組み

日本医科大学武蔵小杉病院 伊藤 結衣

O9-5 救急救命士学生による国際受援実動訓練への初参画—模擬患者活用の教育的意義—

国立健康危機管理研究機構 危機管理・運営局 DMAT 事務局 金井 滉己

O9-6 多層的演習を通じた災害医療ロジスティクス人材育成の実践報告

日本体育大学 保健医療学研究科 木村 磨功

一台のモニタで広がる シングルユース内視鏡

Ambu Endoscopy Solution

分離肺換気、ファイバー挿管、
気管支鏡検査、処置
Ambu® aScope™ 4 ブロンコ

喉頭・嚥下内視鏡検査
Ambu® aScope™ 4 ライノリング

分離肺換気、ファイバー挿管、
気管支鏡検査、処置
Ambu® aScope™ 5 ブロンコ

膀胱鏡検査、尿管ステント交換、
ポトックス注射
Ambu® aScope™ 4 シスト

経尿道的尿路結石破砕術
Ambu® aScope™ 5 ウレテロ

Ambu aScope ブロンコ 一般名称: ビデオ軟性気管支鏡 認証番号: 231AFBZI00026000
Ambu aScope 5 ブロンコ HD 一般名称: ビデオ軟性気管支鏡 認証番号: 304AFBZI00109000
Ambu aScope ライノリング 一般名称: ビデオ軟性鼻咽喉鏡、ビデオ軟性口腔鏡 認証番号: 303AFBZI00027000
Ambu aScope シスト 一般名称: ビデオ軟性膀胱鏡 認証番号: 302AFBZI00095000
Ambu aScope 5 ウレテロ 一般名称: ビデオ軟性尿管腎盂鏡、ビデオ軟性腎盂鏡 認証番号: 306AFBZI00046000
医療機器の種類: 管理医療機器・特定保守管理医療機器
【選任製造販売業者等の氏名又は名称等】 選任製造販売業者: アンブ株式会社 製造元: Ambu A/S (デンマーク)

Ambu エービュー 2 アドバンス 一般名称: 内視鏡ビデオ画像プロセッサ 届出番号: 13B1X10461000001
医療機器の種類: 一般医療機器・特定保守管理医療機器
【製造販売業者等の氏名又は名称等】
製造販売業者: アンブ株式会社
製造元: Ambu A/S (デンマーク)

※ Ambu aScope 4 ブロンコ、Ambu aScope 5 ブロンコ、Ambu aScope 4 ライノリング、Ambu aScope 4 シスト、Ambu aScope 5 ウレテロの使用目的は観察、診断、撮影又は治療のための画像を提供することです。上記処置の補助が可能です。

Ambu

製品に関するお問い合わせ先

アンブ株式会社

〒102-0084 東京都千代田区二番町12-3 グレイス麹町10階
www.ambu.co.jp

©2025 Ambu KK AD-PF-1-HCP-Ver1.0-2025-11

NIHON KOHDEN

AED-3250



ガイドライン
2020 対応



日本語 English
BILINGUAL

made
in
Japan

自動体外式除細動器 AED-3200シリーズ

オートショックAED

～救助者の心理的負担の軽減を目指して～

- 電気ショックが必要な際は、装置が自動で電気ショックを行うため、ショックボタンはありません(通電することをお知らせする表示のみ)。操作を減らすことで、救助者の心理的負担の軽減をサポートします。
- 3.5型カラー画面＋音声ガイドで操作をサポート。
- 電気ショック実行時には、「3、2、1」のカウントダウンを画面と音声でお知らせ。傷病者の体から離れることを周知します。



音声ガイドの聞き取りにくい環境や耳の不自由な方の操作をサポート



未就学児/小学生～大人モード切換スイッチでさまざまな年代に対応(パッドは共通)

- ・添付文書を必ずお読みください。
- ・電極パッドは使い捨てです。再使用できません。
- ・AEDに不測の事態が発生した時及び譲渡時(高度管理医療機器等販売業の許可業者に限り)、廃棄時には、日本光電またはAEDを購入された販売店にご連絡ください。
- ・未就学児(小学校に上がる前の子ども)には未就学児モードへ切り換えて使用してください。

販売名: 自動体外式除細動器 AED-3200シリーズ
商品コード: AED-3250
医療機器承認番号: 30400BZX00003000
クラス分類: 高度管理医療機器、特定保守管理医療機器

AED設置管理タグをよく見える所に!



忘れないで日常点検!

AEDは救命処置のための医療機器です。AEDを設置したら管理者も設置し、いつでも使用できるように、AEDのインジケータや消耗品の有効期限などを日頃から点検する事が重要です。

製造販売業者または販売業者が、設置者の保守管理の手間を軽減する独自のサービスをご用意しております。お客様の都合に合わせて、これらを利用し、いつでもAEDが使える状態にしておいてください。



AED設置管理タグ

AEDのお求めは日本光電へ

〈製造販売〉

日本光電

東京都新宿区西落合1-31-4
〒161-8560 ☎03(5996)8000

* カタログをご希望の方は当社までご連絡ください。

★AED保守受付センター ☎0120-233-821

★AED専用ホームページ <https://www.aed-life.com/>